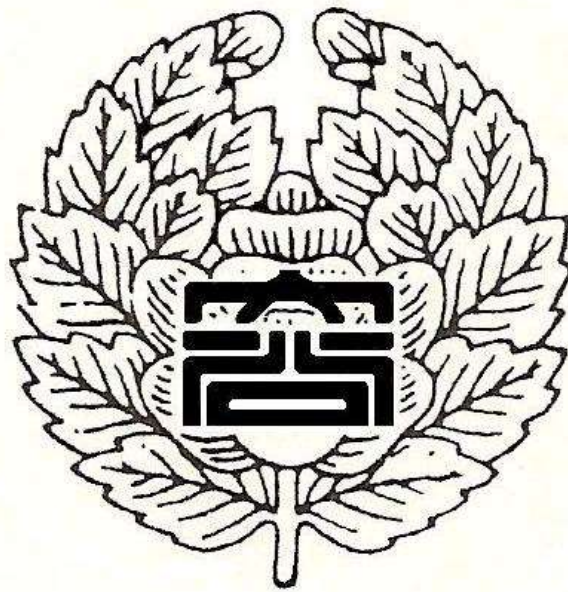


2018年度相互評価報告書

対象校

札幌大谷高等学校



評価校

北海道大谷室蘭高等学校

(2018年12月11日実施)

2019年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主査	中西 猛雄（北海道教区大谷学園委員会委員）
委員	堀 武（北海道教区大谷学園委員会委員、元北海道学事課長）
委員	金石 潤導（真宗大谷派北海道教区教化本部長）
委員	種市 政己（札幌大谷高等学校長）
委員	大西 正宏（帯广大谷高等学校長）
委員	山下 優（稚内大谷高等学校長）
委員	竹本 将人（北海道大谷室蘭高等学校長）

札幌大谷高等学校の概要

設置者	学校法人 札幌大谷学園
理事長名	月輪淳裕
校長名	種市政己
開設年月日	1906年(明治39年) 4月
所在地	札幌市東区北16条東9丁目1番1号
設置学科	普通科、音楽科、美術科
定員	普通科250名、音楽科30名、美術科40名
教職員数	134名 73名（常勤） 61名（非常勤）

I 建学の精神・教育の理念・教育目標・学校目標

「札幌大谷高等学校は、教育基本法、学校教育法並びに私立学校法に従い、且つ宗祖親鸞聖人が開頭された本願念仏の大道による仏法と人を重んずる宗教教育を基調とし、自他尊重の社会人、国際人の養成及び幼児保育を行い心身豊かな人材を育成することを目的とする」を建学の精神とし、これを具現化する教育活動の充実を図り、仏教的情操教育により、21世紀を担う心豊かな人物の育成に努めている。

[教育目標・学校目標について]

建学の精神から導き出された教育目標は、校訓として次のように定めている。
四つの道しるべ

学び知ることの楽しみを味わおう

すなおな心で真実を求めよう

身体をすこやかに鍛えよう

限りない恵みに感謝しよう

これらを基に「人間教育を行う進学校」として、自らの人生を主体的に生きる人物、国際化を生きる有為な人物、豊かな人間性あふれる人物が育成されるように努めている。

[定期的な点検等について]

教育目標や学校目標は時代や社会の変化に対応しなければならない、固定化、画一化は教育の創造性を奪い、学校の健全な在り方を阻害しかねないとし、年間反省と年度方針作成の段階で問い直し、教職員全員が共有できるように検討がなされている。

II 分掌

【教育課程・学習指導】

(1) 普通科のコース編成について

最難関大学を目指す英数選抜コース<6カ年>、難関大学を目指す学力重点コース<Sコース>、クラブ活動に励みながら大学進学を目指す個性探求コース<Gコース>の3コースがある。

① 英数選抜コース<6カ年>

中1・2は基礎力養成期、中3・高1は応用力養成期、高2・高3は実戦力養成期とした6カ年一貫教育が行われている。また、月金を除く放課後に80分2コマの講座を、土曜日も80分3コマが用意され、実質1日8時間以上と

週6日制授業が必修となり、充実した授業体制となっている。

英語を一例に挙げると、英単語テストと受験の結果が比例していることから、大学受験の基礎となる英単語3000～4000語を中学3年生までにマスターすることを目標とし、質・量的にも充実している。さらに、教員全員が共通理解の下、進学指導を行っている点が評価できる。

② 学力重点コース<Sコース>

週3日の放課後講座（必修）と土曜講座、朝学習などを通して、ハイレベルな大学受験に対応する学力を養成している。英語と数学は1年生からグレード別授業を導入している。また、教員同士が連携し、一人ひとりに向き合いながら進路指導を実施している。特に、「講座制」では、各自のニーズに合わせた内容を自ら選択し、学習ができるようになっており、授業+講座で進路実績を向上させている点が評価できる。

③ 個性探求コース<Gコース>

学習とクラブ活動を両立させながら、進路の実現を目指している。一般入試はもちろん、推薦入試のための面接対策や小論文の書き方などの指導も充実している。学習とクラブ活動の両立、入試制度の多様化に対応している点が評価できる。

(2) 講座制について

自分で選んだレベルの講座を受講でき、受講料は無料である。1コマ80分で、深く学ぶことができる。

朝講座 7:20～ 8:10（放課後講座に参加できないクラブ生徒）

放課後講座 15:50～17:10（Sコース必修）

17:20～18:40

土曜日講座 8:50～10:10

10:20～11:40

13:30～14:50

教員の勤務体制は、労働基準法に則り、変則勤務時間に対応している。本州の進学校でも同様の対応をしている。変則時間帯の導入で、教員の労働時間を調整しつつ課外講座の充実を図っている点が評価できる。

【生徒指導・部活動(生徒指導・生徒会)】

(1) 生徒指導

問題行動の未然防止についての取り組みは行われており評価できるが、「問題行動は先生のいないところで起こる。」という認識を、全教職員・部活コーチングスタッフなどが持っているかが重要であると考えます。

その他として、高校入学前に、「着こなしセミナー」を実施し、制服に込められた願いを生徒に理解させており、着崩し防止などにつながっている点が評価できる。

(2) 部活動（生徒会）

36の部活動（内6つが強化指定）・同好会が文武ともに十分に用意され、生徒の課外活動を充実させようと、生徒の多様なニーズに応えようとしている点が評価できる。

【進路指導】

1年生の進路オリエンテーションやキャリア教育、職業別ガイダンス、2年生でのインターンシップ、3年生の志望理由書の書き方や面接の練習など、各学年での進路計画が明確にされており、生徒が安心して進路に向かうことができる環境が整備されている。

さらに、教育内容の充実が進路面にも表れており、進学・就職共に生徒をバックアップ（教員全体で取り組んでいる＝誰でも進路指導ができる）し、希望の進路に結び付ける体制を整えている。資格取得やインターンシップの取り組みが地元企業への就職に結びついており、また、進学実績も向上していることは評価できる。

【保健管理・安全管理・個人情報管理】

校内の美化・清掃活動は、学級活動・学年委員会活動に加え生徒会委員会活動を通して行っている。校舎外の敷地については、部活動生徒による率先活動、降雪期前には各学級への割り当て、ボランティア活動、精神修養の為自主的に清掃活動を行っているクラブもある。

学園防災委員会および中高の消防計画により、年1～2回の避難訓練と教職員による避難器具使用習熟運連を実施している。地震発生後の災害を想定した防災訓練も行う必要がある。不審者対策としては、モニター管理、出入口人感センサー、休日及び夜間の警備員配置で対応している。

生徒・保護者の個人情報の取り扱いについては、入学時に同意書の提出を義務付け、目的外使用を厳しく戒め、安全管理や個人情報管理に関して規程が整備され、学校としての姿勢や対応を「入学の手引」に明示している点が評価で

きる。

【入試・生徒募集】

管理職中心とした生徒募集の感が否めない。されど、6月には市内中学校に対して説明会を実施（体育館）するなど取り組みのはやさ、7月中旬には塾の先生を中心とした入試基準などの説明を行うなど幅広い募集展開をしていることも事実であり評価できる。さらに、9月・11月の学校公開（部活動体験含む）による生徒募集を展開し、一定の成果を得ている。

学校案内は教員向けに作成し、業者は3年に一度見直しをしている点で、苦労は伴うが新鮮さを取り入れようとしている。HPについては、セキュリティーを含め業者に指示をして更新作業をさせるなど、万全の取り組みをしている。奨学金も内部進学者が不利とならぬよう配慮するなど、きめの細かい募集活動を行っている点が評価できる。

【特別支援教育】

養護教諭・学年主任、副主任・学級担任・必要に応じてカウンセラーが参加し、情報交換並びに指導方法の検討と実践を行う生徒相談部を設置している。

「発達障害」に対しては、保護者との連携を強めつつ、学校就学を前提に集団生活における種々の配慮事項等を職員の全体理解を構築し対応している。また、欠席状況による単位修得が困難となる場合に備え、学校長・教務部長・生徒指導部長・保健体育部長・養護教諭・学年主任・学級担任等から構成される「長欠者会議」で指導方法を確認後、職員会議に報告するなどきめ細かく対応している。今後、学校では「障害を理由とした差別」があつていけないため、特別支援に関する教職員の共通理解を深めつつ規程を整備し、特別支援委員会を組織し多様な生徒の実態を踏まえた対応を行う必要がある。

【地域活動】

P T Aや後援会と連携を図り、学校行事の内容や写真などをホームページに掲載し、積極的に学校の様子をP Rしていることは評価できる。また、花祭りや報恩講などの行事の際、生徒が持ち寄った花を手し、普段お世話になっている学校関係者や交通・消防関係、出身中学校などに直接訪問しご挨拶していることは、地域と生徒が直接触れ合えるとても良い機会であり評価できる。今後とも続けていただきたい。

地域に開かれた学校づくりの原点は、教育実践やボランティア活動を通じた地域との連携なので、今後とも質・量の充実を図っていくことが大事である。

【図書館等】

図書館は、勉強スペースが確保され、照明も多く明るい。司書教諭が中心となり、調べ学習などが行いやすいように環境を整えている点が評価できる。さらに中学・高校が共有していることで、年代のニーズに合う図書が多く用意され、それが効率的に活用されている点が評価できる。

効率的な蔵書管理のため、新規購入図書のデータベース化がなされ、既存の蔵書もデータベース化を進めている。年数が経過した図書もあり、新規情報の収集を行い、利用者が快適に使用できるよう廃棄入れ替えを進めるべきである。

Ⅲ 管理運営（ガバナンスの確立）

学校の運営に当たっては理事長、校長、教職員が一体となって諸課題に取り組まなければならないことは言うまでもない。

自己点検評価報告書では学校の経営、管理は常勤の理事と各部門の所属長が構成員となっている常務会が月2回の定例会として開催され、諸事項の日常的業務を審議決定し理事会に報告。上程された案件は速やかに審議される体制が確保されている。今後、少子化等による厳しい環境が予想されるので、社会情勢の把握に努め、諸課題に積極的に対応していくことを期待したい。

また、同報告書では、教職員が抱く法人や学校再建の意見を幅広く取り入れるため、所属長面談やアンケートの実施を行う意向であることを評価するとともに、今後の成果を期待したい。

Ⅳ 財務

1億3700万円の支出超過の要因は、主に生徒納付金収入の減少と借入金返済に伴う基本金組み入れを計上したためである。中期的資金計画で単年度収支差額がマイナスとなっており、継続的に生徒確保が最重要事項であり、合わせて人件費支出の改善の必要もある。しかし、本校の特色である音楽科、美術科は普通科単科の学校に比して教員数が増えることが避けられず、人件費単価が高くなるという矛盾も抱え、安定した学校経営のためには実効性のある対策が求められる。

Ⅴ 改善・改革

長期的な学校経営戦略の企画立案を行う運営企画室と「年間反省」の取りまとめ過程を通じた職員相互間の議論とコミュニケーションの深まりが、分掌の活性化や教科指導力の向上に大きな役割を果たし、これら二つの動きが「選ばれた学園、学校」となるための車の両輪となり得ることを評価したい。